

チャットのトランスクリプト

佐 藤 裕

1. はじめに

本稿は、富山大学人文学部社会学コースで実施している「社会学実習」という授業のレポートをもとにして書かれた。

社会学実習という授業は、グループ実習という形で行われており、各期の始めに受講生が2～3人程度のグループを作り、それぞれの問題関心に従って自主的に簡単な調査を行い、レポートを提出するというものである。テーマの設定や調査方法も基本的に学生が自発的に決定し、教員の関与は少ない。半年ごとの授業であるため大規模な調査はできないが、調査の計画から実施、レポート作成という一通りの手順を経験することによって卒業論文執筆のためのステップとして機能している。

本稿のもとになったのは、2002年度後期社会学実習の「会話分析」グループのレポートである。グループのメンバーは、川畑直樹（3年）、西島靖治（3年）、常川満（2年）の3名である。このグループは当時会話分析に興味を持っていた川畑がリーダーとなり、インターネットコミュニケーションの「会話分析」やってみようということでスタートした。まず、「会話分析」の面白さを活かすには、リアルタイム性のあるチャットが最適であろうということで、チャットの体験や会話分析の勉強会、そしてチャットに関する研究のレビューなどを始めた。

その結果、グループのメンバーの問題意識は、チャットでは「会話の順番取り（Turn Taking）システム」はどのように機能しているのかということに絞られた。

そこで、チャットでの会話からトランスクリプトを作成し、その構造を音声言語による会話のそれと比較してみようということになったのだが、問題はチャットのトランスクリプトの記法であった。

チャットはシステムの発言された言葉をすべて記録することができ（この記録をログと呼ぶ）、発言そのものの記録は容易である。また、チャットシステムによっては発言時間を秒単位で記録しており、発言間の間隔なども知ることができる。学生たちが調べた先行研究でも、チャットの研究はこのログに基づいて行われていた。

しかし、チャットのログというのは、必ずしもチャット参加者の経験を正確に反映していないのではないか。チャットの参加者が感じる「戸惑い」や会話の混乱を記述するためには、それぞれの参加者のディスプレイに文字が表示されるタイミングとキータッチの様子を記録する

ことが必要なのではないかと感じた。これが私がグループのメンバーに投げかけた課題であった。

これを受けて、調査は3人のチャット参加者の背後にビデオカメラを設置してディスプレイとキーボードを撮影するという形で行われ、そのビデオテープとチャットログの整理、特に記法の開発に多くの時間が割かれることになった。

完成した「チャットのトランスクリプト」は私の予想を上回る出来だった。「チャット」というコミュニケーションの特性を記述する優れた方法であり、その公表はCMC研究に何らかの寄与ができるのではないかと感じた。これが、本稿を執筆しようとした動機である。

以上のように、本稿の中心は、授業の中で学生が開発した「チャットのトランスクリプト」の記法である。これに私が記法自体の評価やそこから引き出されるインプリケーションなどを補う形で本稿を執筆した。

2. 問題設定

先に説明したように、この調査を企画したのは学生であり、基本的に学生自身の問題意識によってテーマや調査方法は決定されている。しかし、ビデオカメラの使用やタイミングの記録などのアイデアには私自身の問題意識から来る「アドバイス」も反映されており、学生のレポートではそれらは語りつくされていない。そこで、それらを私自身の言葉で説明をしておこう。

私もチャットはかなり古い時期から経験しているが、(会話分析などに関心を持つ人なら誰でもそうだと思うが)チャット特有の会話進行にはとても興味を引かれてきた。複数の話題が同時に進行したり、発言の順番がしばしば混乱するチャットは、初心者は大きな戸惑いを感じることが多いと思う。

この戸惑いは、チャットが文字だけによるコミュニケーションであるということも関係するが、それ以上に、時間の要素が大きく関わっているように思う。

例えば、まだチャットに慣れていない人がベテランメンバーの多いチャットグループに参加すると、何か発言しようと思ってキーボードを打っている間に他の人の発言がどんどん画面に表示され、会話が進行していってしまうので、発言の機会を失ってしまうということが起こる。

これはもちろん、タッチタイプの速度も関係しているが、それだけではなく、キーボードを打っているという状態であることが、発言が画面に表示されるまで相手にはわからないことが主要な原因ではないだろうか。

このような状況を正確に記述するためには、それぞれの参加者の画面表示とタッチタイプの状況を記録することが必要であると考えたのである。

3. 調査の方法とデータの記法

調査（というより実験に近いが）は3人の学生がチャットを行う様子を3台のビデオカメラで撮影するという形で行った。チャットのシステムは、研究室にあるサーバ上で稼動しているWEBBBS¹⁾というフリーウェアを用いた。このシステムはHTTPによるチャットであるため、クライアントからの要求で画面を更新する。そのため、発言は瞬時に他の参加者の画面に表示されるのではなく、各クライアントの画面更新（これを以下リロードと呼ぶ）時に表示される。すなわち、発言送信からそれが他の参加者の画面に表示されるまでにタイムラグが存在するのである。リロードの間隔はこのシステムの最小値である10秒に設定した²⁾。

3人の参加者はそれぞれ別の部屋からサーバにアクセスし、互いの状況が（チャット画面以外からは）分からないようにした。チャット参加者はすべて社会学コースの3年生であり、全員チャットの経験はほとんどない。

チャットで話す話題は、「今年の忘年会はどうするか？」というテーマから始めるということをあらかじめ参加者に伝えておいた。チャットは30分弱であり、スタートの合図から10分間をデータ化した。

この調査によって得られたデータは、サーバに記録されたログと3台のビデオカメラの映像である。ログには発言内容と送信者、そして送信時間が記録されている。ビデオカメラはディスプレイとチャット参加者の手元（キーボード）をとらえているが、残念ながらディスプレイに表示された文字をビデオ画像から読み取ることは不可能であった（何か文字が出ているということは読み取れる）。

このデータをもとに、どのような形でデータを記述するのかを調査グループで検討した。知りたいのは発言が表示された時刻やキーボードに打ち込み始めた正確な（比較可能な）時刻であるが、3台のビデオカメラの時刻表示はまちまちであり、それをそのまま手がかりにすることはできない。そこで、サーバに記録されている発言送信時間を基準にして、ビデオ画面を見ながらストップウォッチでそれらの時刻を特定した。

また、作業を行う中で学生たちが注目したのは、「キーボードで打ち込んでいるのに結局送信されずに消されてしまった文章が結構ある」という事実であった。これを含めて、発言の入力開始と送信（全消去）の時刻と他の参加者の発言が表示された時刻を、それぞれの参加者ごとに示し、3人分を横に並べることによって互いの関係が分かるようにしたものが、最終的に出来上がった「チャットのトランスクリプト」である。

言葉で説明するよりも実物を見てもらったほうが早いだろう。末尾の資料がトランスクリプトである。

一番左の欄が時刻であり、右の3つの欄は3人の参加者についてのデータを示す。

「R」はそれぞれの参加者のリロードのタイミングであり、そのときに表示された内容はそのすぐ下に書かれている。リロードしても何も発言が追加されなかった場合は「R」の表記を省略している。

濃い色の網掛けは、キーボードを打ち込んで発言を準備している時間を示す。発言内容は網掛けの最下部に書かれている。薄い色の網掛けは、何か発言を準備しながら結局すべて消してしまった時間帯を示す。キーボードを打ち始めた時刻が開始時刻ですべて消してしまった時刻が終了時刻である。文章の内容は記録されていない。

冒頭部分からこのトランスクリプトを読んでみよう。

まず、司会者の「始めてください」という発言がそれぞれのディスプレイに表示されている(司会者「K」の発言はこのときだけである)。発言が表示された時刻はHのパソコンでは40分32秒、他の2名は40分35秒である。

開始の合図を受けて、まずHがキーボードを打ち始める(40分35秒)。そして14秒後の40分49秒に「今年の忘年会どうする？幹事？」という発言を送信している(幹事はNである)。

この発言が40分55秒にNとMの画面にほぼ同時に表示されると、それを受けてまずMが40分57秒に、次いでNが41分02秒に発言を打ち込み始める。しかし、Nが発言を送信するより先に、Mが打ち込みを終了し、41分04秒に「って言うか、店どこ？」という発言を送信する。この発言はまだ文章を準備中であったNの画面にすぐさま(たまたまりロードのタイミングが合ったため)表示される。Nは準備した発言をとりやめ、41分08秒にいったんすべてを消去している。

Nは41分12秒に再びキーボードを打ち始め、Mの発言を少し遅れて受け取ったHも41分15秒に打ち始めている。先に書き上げるのはHであり、41分24秒に「もう決まったんだっけ？」という発言を送信し、1秒後にNの画面に表示される。そして、さらに1秒後にはNがようやく「どういうところがいい？」という発言を送信している。

ここまでの時点(41分26秒)で、それぞれの画面に表示されている発言は、Nの場合はすべての発言(Nの「どういうところがいい」まで)であるが、Hはその1つ前のHの発言まで、Mの画面にはまだNの発言もHの発言も表示されていない。Mがこの2つの発言を同時に受け取るのは41分32秒のリロードにおいてである。

ここまでの部分をログとしてみると、以下ようになる。

40分32秒 K：始めてください

40分49秒 H：今年の忘年会どうする？幹事？

41分04秒 M：って言うか、店どこ？

41分24秒 H：もう決まったんだっけ？

41分26秒 N：どういうところがいい？

ログを見ても、41分26秒のNの発言「どういうところがいい？」はその直前の「もう決まったんだっけ？」とつながっておらず、「店どこ？」への返事らしいことは分かるが、トランスクリプトではそれがよりはっきりするとともに、発言順が混乱する様子もつぶさに観察することができる。

4. トランスクリプトの分析

1) 発言順の混乱

冒頭部分の発言順の混乱についてももう少し突っ込んで考察してみよう。

Nの「どういうところがいい？」という発言は明らかにMの「って言うか、店どこ？」への返答であるが、その間にHの「もう決まったんだっけ？」という発言がはさまってしまっている。これは、Mの「店どこ」に答えようとしたHの発言がたまたま先に書きあがってしまった結果だと受け止めることもできるが、実はそれ以前に混乱の原因はあるように思う。

そもそも、Mの「って言うか、店どこ？」という発言はどのような意図でなされたものなのか？ その直前の「今年の忘年会どうする？幹事？」という発言は、「幹事？」という形で次の話し手を指定している。この時点で次に発言権を持つのは幹事であるNのはずである。それにもかかわらずMが「店どこ？」と発言しているのは、直前の「忘年会どうする？」にかぶせるような形で質問を補足あるいは追加してNに答えてもらおうという意図であろう（MはHの発言が表示された直後に打ち込み始めている）。音声言語による直接の会話なら、この2つの発言は相次いでなされ、Nはその2つを受け取る形で発言ターンを得ることになる。

ところが、NのディスプレイではMの発言はHの発言の10秒後に表示されており、一度書きかけた文章をいったん削除して書き直すことになってしまう。また、Hにとっては、Mの発言は自分の発言の19秒後であり、とても連続して発話されたものとは受け止められないだろう。この19秒の間、画面の動きは全くなく（Nが書き出して削除していることも知る由がない）、Mの「店どこ？」発言はNがいったん発言ターンを失ってから新たに開始された発言であり、次の話し手の指示を持たないものと受け止められたのではないだろうか？

すなわち、音声言語による会話では発言タイミングが次の話し手を指定する場合があるのだが、チャットの場合はタイムラグによってその指定がうまく機能せず、発言順が混乱する場合があるのだと考えられる。

41分53秒の「って言うかみんなくるんかなー」から43分前後までの一連の発言は、チャッ

トの別の側面について考える題材となる。この間のログは以下の通りである。

- 41分53秒 N：っていうかみんなくるんかなー
42分14秒 M：うち、バイトあるかも。休めるかなあ。
42分16秒 H：四年生はまちまちかもね。
42分31秒 N：四年生最後やしきてほしいんやけど
42分47秒 H：バイトは休め♪
43分03秒 N：そうそう
43分06秒 M：四年生と連絡取れる？

42分47秒のHの発言は、明らかに42分14秒のMの発言への応答である。これもまた、対応する発言対の間に他の発言が挟まる現象である。そこで、この間の経緯をトランスクリプトで細かく追ってみよう。

Nの「っていうかみんなくるんかなー」という発言は、次の話し手を指定していない。そのため、この発言が画面に表示されるとすぐに、HもMも発言を書き始めている。先に発言を送信するのはMで、41分14秒に、その2秒後にHが発言を送信する。Hの画面にMの発言が表示されるのは自分の発言を送信したときである（送信時にリロードが行われる）。このとき、Hには発言順の感覚的な逆転現象が起こる。サーバへの送信はMの発言（うち、バイトあるかも・・・）が先であるが、Hにとっては、自分の発言を書き上げて送信したときに初めてMの発言が画面に表示されるので、その順番が逆であるかのように認識されるのである。

Hが次に文章を打ち始めるのは42分28秒であるが、これはいったんすべて削除される。そのためここで書かれた内容を知ることができないが、Mの発言（バイトあるかも）への応答であったと考えるのが自然だろう。そして、削除の後すぐにまた書き出して、42分47秒に「バイトは休め♪」という発言を送信するのだが、その間にNの「四年生最後やし」という発言が表示される。

このような経緯を考えると、ログ上は「バイトあるかも」という発言と「バイトは休め♪」の間には2つの発言が挟まっており、しかもそのうちの一つはH自身の発言であるため、非常に錯綜した感じに見えるが、Hの認識ではMの発言を見て（他の発言が出ないうちに）それに対する応答を書き始めたということであり、非常に自然な流れである。

一方、Mの画面に注目すると、自分が「バイトあるかも」と発言してから12秒後にHの「四年生はまちまちかも」という発言、そしてさらに10秒後にNの「四年生最後やし」の発言が表示され、完全に話の流れは四年生についての話題に移ったと思える頃に（自分の発言から42秒後）「バイトは休め♪」と表示されるわけである。

以上のように、このチャットでのタイムラグは、参加者それぞれに異なった間隔で発言を表示し、さらに自分の発言と他者の発言の感覚的な逆転現象を引き起こすことによって、参加者ごとに異なる発言の流れのイメージを提供してしまう。極端に言うなら、チャットの参加者は同じ会話空間を共有しているのではなく、実はそれぞれに異なる会話空間の中でチャットを行っているのである。

2) タイムラグ

以上の考察によって、チャットにとってタイムラグが会話を混乱させる大きな要因であることが明らかになったが、このタイムラグが生じる原因は2種類のものがある。1つは発言を送信してからそれが他の参加者の画面に表示されるまでの時間、2つめは発言を入力し始めてから送信するまでの時間である。前者を「通信ラグ」、後者を「タイプラグ」と呼ぶことにしよう。

「通信ラグ」の大きさは、チャットシステムとネットワークの状態によって大きく変化する。特に、HTTPによるチャットシステムの場合、クライアントのリロード要求によって初めて新規の発言が表示されるため、「通信ラグ」は非常に大きくなる。今回用いたシステムでも最大10秒程度の「通信ラグ」が起こっている。しかし、IRCなどのチャット専用のソフトウェアやインスタントメッセージではサーバ側から（あるいは別のクライアントから直接）クライアントに対してメッセージを送信できるので、「通信ラグ」は小さくなる。参加者間の回線状態が良好で使用しているパソコンの能力も十分であれば、発言はほとんど瞬時に相手の画面に表示される。

一方、「タイプラグ」は通信システムではなく参加者のタッチタイプ技術とチャットへの習熟に依存する。今回のデータの中では、最も短い時間の発言でも5秒程度、長いものでは入力開始から送信まで30秒以上かかっているケースも少なくない（その間に発言内容が変更されている可能性はあるが）。

先に考察した事例での「タイムラグ」はこの2つが組み合わさったものである。そこで、どちらのラグがどの程度影響しているのかを見てみよう。

まず、40分49秒送信の「今年の忘年会どうする？幹事？」が表示されてから41分04秒送信の「っていうか、店どこ？」が表示されるまでのタイムラグであるが、Nの場合この2つの発言が表示された時刻の差は9秒であり、これはMが入力に要した時間（タイプラグ）にほぼ相当する。発言が送信された時刻の差は15秒であるのにそれよりも短い。これはHの発言の送信から受信までの通信ラグがNとMでほぼ同じくらい生じているため、それが相殺された結果である。一方、Hの場合は、Hの発言（送信時刻＝表示時刻）からMの発言の表示時刻までの差は19秒であり、これは、Hの発言の通信ラグ＋Mのタイプラグ＋Mの発言の通信ラグであ

る。

以上のように、通信ラグの影響は、単にタイムラグ総量を増大させるということだけではなく、参加者それぞれに異なった間隔で発言を表示することにもある。そのことが、チャットの会話の進行に非常に大きな影響を与えていると考えてよいだろう³⁾。

4. チャットの記法の評価と可能性

3節で見たように、このトランスクリプトはログとは比較にならないほどの豊富な情報を持ち、より細かな分析を可能にする。そして、タイプの開始と送信/削除のタイミングのみを記録するという方法も、簡潔さと情報の豊富さの程よいバランスをもたらしたのではないだろうか。実際にはビデオ画像から文字を読み取れなかったためにそうするしかなかったのであるが、結果的にはそれが幸いしたように思う。

このトランスクリプトは、さまざまなタイプの分析に道を開くものではないかと思う。まず「トランスクリプト」という命名が示すように、会話分析の知見を参考にしながら、音声言語による会話との比較を行うことも可能だろうし、会話分析的な手法でチャットの特徴を分析したり、円滑なコミュニケーションのための課題を抽出することもできるかもしれない。

また、この記法は、時刻を鍵とした定量的な分析にも道を開く可能性があると思う。本稿の分析でもそういった方向性の入り口を示したつもりであるが、入力時間や応答時間などを測定したり、その結果起こる会話パターンの変化を調べることにより、タイピング能力の影響などの研究が可能かもしれない。

注

(1) WebBBS Ver 2.15 for WinNT/95/98

現在はバージョンアップにより名前が変わっている。サポートページのアドレスは以下の通り。

<http://www.duskinhkr.co.jp/~alexuser/>

(2) 実際には、サーバの処理の遅れなどでさらに1～2秒程度の遅延が生じていることもあったようだ。

(3) チャットにおける「タイプラグ」の重要性を指摘したものとして、以下の論文がある。

細馬宏通,2002,「相互行為とメディアチャットという「会話」はどのような時空間構造を持つか」,伊藤勇・徳川直人編著『相互行為の社会心理学』,北樹出版

この論文で細馬はさまざまな実験的なチャットシステムを用いることにより、チャットの時間構造の重要性を明らかにしている。細馬はこの論文の末尾で以下のように述べている。

モニタに向かい、文字列を打ち込む行為は、どのような時間構造を持っているか。そしてそれはどこまで参加者間で共有されるか。こうしたことに注目することで、電子ネットワーク研究はより深みを増すことになるだろう。

本稿はこの問題意識に部分的にはあれ答えるものだと思う。

トランスクリプト

時間	N	H	M
40分32秒		R K：始めてください	
40分35秒	R K：始めてください	R	R K：始めてください
40分49秒		「今年の忘年会どうする？幹事？」	
40分55秒	R H：今度の忘年会どうする～		R H：今度の忘年会どうする～
40分57秒			
41分02秒	D		
41分04秒	R M：って言うか、店どこ		「って言うか、店どこ？」
41分08秒		R M：って言うか、店どこ	
41分12秒			
41分15秒			
41分24秒	「どういところがいい？」	「もう決まったんだっけ？」	
41分25秒	R		
41分26秒	H：もう決まったんだっけ		
41分31秒		R N：どういところがいい？	R H：もう決まったんだっけ？ N：どういところがいい？
41分38秒	「まだ決めてないよ」		

富山大学人文学部紀要

時間	N	H	M
41分43秒			「おいしいとこ・・・」
41分45秒			R N：まだ決めてないよ。
41分49秒	R M：おいしいとこ・・・	R N：まだ決めてないよ M：おいしいとこ・・・	
41分51秒	「ていうかみんなくるんかなー」	「安く飲めれば…」	
41分53秒	R		
41分55秒	H：安く飲めれば…	----- D	R N：っていうかみんな～ H：安く飲めれば
41分58秒			
42分01秒		----- D	
42分05秒		R N：みんなくるんかな～	
42分13秒			「うち、バイトあるかも。休めるかなあ。」
42分14秒			
42分15秒	R		
42分16秒	M：うち、バイトあるかも～	「四年生はまちまちかもね。」	
42分18秒		R M：うち、バイトあるかも～	
42分25秒	R		
42分26秒	H：四年生はまちまち～		R H：四年生はまちまちかもね。
42分28秒		----- D	
42分31秒	「四年生最後やしきてほしいんやけど」		
42分36秒		----- D	
42分38秒		R N：四年生最後やし～	R N：四年生最後やし～
42分39秒			
42分47秒	----- D	「バイトは休め♪」	

チャットのトランスクリプト

時間	N	H	M
42分49秒		D	
42分53秒	R H：バイトは休め♪		
42分56秒			R H：バイトは休め♪
42分58秒			
42分59秒			
43分00秒			
43分03秒	「そうそう」		
43分06秒			「四年生と、連絡とれる？」
43分08秒			R N：そうそう
43分09秒	D	R N：そうそう	
43分10秒		M：四年生と、連絡とれる？	
43分14秒			
43分15秒	R M：四年生と、連絡とれる？		
43分19秒	D		
43分24秒		「みんな富山におるんかな？」	
43分25秒	R H：みんな富山に～		
43分28秒			R H：みんな富山に～
43分30秒			
43分39秒			
43分41秒		D	
43分51秒	「忙しいんかなー？」		
43分53秒			「あー、どうやら。帰ってる人いるかも」
43分55秒			R N：忙しいんかなー？
43分57秒		R	

富山大学人文学部紀要

時間	N	H	M
43分58秒	D	N：忙しいのかなー？	
43分59秒		M：あー、どうやる。帰って～	
44分01秒	R M：あーどうやる。帰って～		
44分04秒			
44分17秒		「微妙・・・来年はわが身だね (>A<)」	
44分23秒	R H：微妙・・・来年は～		R H：微妙・・・来年は～
44分25秒			
44分26秒			
44分27秒			
44分32秒	R H：二年生はどう？	「二年生はどう？」	R H：二年生はどう？
44分33秒			
44分35秒			
44分36秒			R H：二年生はどう？
44分38秒			「それを言わないで・・・。」
44分43秒	R M：それを言わないで・・・。	R M：それを言わないで・・・。	
44分44秒			
44分47秒	「大丈夫っしょ」		
44分50秒			R N：大丈夫っしょ
44分52秒			「二年生は誘えば来るよ、きっと」
44分54秒		R N：大丈夫っしょ	
44分56秒			
44分59秒	R M：二年生は誘えば～		
45分01秒			
45分04秒		R M：二年生は誘えば～	

チャットのトランスクリプト

時間	N	H	M
45分10秒	「っていうか来さず」		
45分14秒		R N：っていうか来さず。	
45分18秒			R N：っていうか来さず。
45分20秒	D		「そもそも3年生は皆来るん？」
45分22秒	R M：そもそも3年生は～	「来年のことは考えたくないね (w いいぞ、M!!!いけ♪)」	
45分24秒		R M：そもそも3年生は～	
45分26秒			
45分31秒			
45分32秒	R H：来年のことは考えたく～		R H：来年のことは考えたく～
45分38秒		「強制連行☆」	
45分42秒	R H：強制連行☆		R H：強制連行☆
45分46秒			
45分47秒			
45分51秒	「当然」		
45分52秒			R N：当然
45分54秒			
46分00秒		R N：当然	
46分05秒			「バイト、ボイコット!？」
46分10秒		「ていうか、店はどこにするんさ ??めどはたつとるの(〇_〇)」	
46分12秒		R M：バイト、ボイコット!？」	
46分13秒	R H：ていうか、店どこに～ M：バイト、ボイコット!？」		

富山大学人文学部紀要

時間	N	H	M
46分17秒 46分18秒	D		R H：ていうか、店どこに～
46分25秒 46分26秒			
46分38秒			
46分44秒			『○○○』、評判よさそう だよね。」
46分52秒 46分53秒	R 『○○○』、評判よさそう～	「Mもさっき言ってたけど、 おいすいところいいな☆」 R M：『○○○』、評判～	
46分56秒 46分58秒		D	R H：Mもさっき～
47分05秒	R H：Mもさっき～		
47分08秒			

チャットのトランスクリプト

時間	N	H	M
47分28秒	「そやね。予約いつまでにとるべきかなー」		
47分34秒 47分35秒 47分36秒		R N：そやね。予約いつ～	R N：そやね。予約いつ～
47分38秒			
47分42秒			
47分53秒 47分54秒 47分55秒 47分56秒		「はやめが肝心！！忘年会シーズンは特に☆」	「早めがいいよ。いまちょうどシーズンだし。」
48分00秒	R H：はやめが肝心！！～ M：早めがいいよ。～	R M：早めがいいよ。～	R H：はやめが肝心！！
48分07秒 48分08秒	「今度の火曜に四年生に聞いて見るよ」		
48分15秒 48分16秒		R N：今度の火曜に四年生～	R N：今度の火曜に四年生～
48分23秒 48分24秒			「いい店は早くにいっぱいになっちゃうからね。」
48分26秒		R M：いい店は早く～	
48分30秒	R M：いい店は早く～		

時間	N	H	M
48分37秒		「そうやね♪」	
48分39秒 48分40秒	R H：そうやね♪		
48分46秒			R H：そうやね♪
48分51秒	「話変わるけど年末どうするの？ 忙しそう？」		
48分53秒			「あれ？今殿火曜からは、四年 生来るのかな？」
48分55秒 48分56秒 48分57秒		D	R N：話変わるけど～
48分59秒 49分01秒		R N：話変わるけど～ M：あれ？今殿火曜～	
49分03秒 49分04秒 49分05秒	R M：あれ？今殿火曜～		「ごめん、打ち間違えた・・・」
49分09秒 49分10秒	D	R M：ごめん、打ち間違え～	
49分13秒	R M：ごめん、打ち間違え～		
49分16秒		「(´д´)!!!」	
49分19秒 49分20秒			
49分23秒	R H：(´д´)!!!		
49分26秒			R H：(´д´)!!!
49分37秒 49分38秒	「じゃあ誰かに電話かけるよ」	R N：じゃあ誰かに電話～	

チャットのトランスクリプト

時間	N	H	M
49分46秒			R N : じゃあ誰かに電話～
49分54秒		「多分来ないよね・・・(泣) 頼むぞエンドレス幹事！！」	
49分56秒			R H : 多分来ないよね・・・～
49分59秒	R H : 多分来ないよね・・・～		
50分07秒			
50分18秒	D		
50分22秒			「今後のためにもね。いい店は把握せんと。」
50分26秒		R M : 今後のためにもね。～	
50分29秒	R M : 今後のためにもね。～		